

28 脊髄障害女性の妊娠・出産に関する調査報告

病院 看護部 道木恭子、山中京子、富岡佳代、斉藤文子、宮坂良子、堀房子

【目的】

女性は、思春期、成熟期、更年期、老年期とそのホルモンの状態に加え、社会的なライフサイクルによって男性とは異なる健康リスクを持っている。女性の健康問題としては、生理現象としての月経、妊娠、出産とそれらに関する疾患があり、卵巣や子宮など女性特有の臓器に関する疾患もある。しかし、こうした女性特有の健康問題について、障害をもつ女性の実情は何もわかっていない。

当院看護部は脊髄障害女性の健康支援の取り組みとして、先ずその実情を知るべく健康問題に関する調査を実施している。健康問題は多岐にわたるが、今回は脊髄障害女性の妊娠、出産に関する調査から、妊娠期の身体的問題および出産状況について知り得たことを報告する。

【対象と方法】

対象は出産歴をもつ脊髄障害者 51 名である。方法は半構成面接法を用い、51 名のうち 5 名については妊娠経過の観察を実施した。

【結果】

対象者 51 名における合計妊娠、出産件数は 76 件であった。妊娠件数 76 件のうち 71 件が何かしらの合併症に対する治療を要しており、貧血 (37 件)、切迫早産 (16 件)、妊娠中毒症 (10 件)、前期破水 (9 件) など一般妊婦に共通するものに加え、自律神経過反射 (15 件)、褥瘡 (13 件) など特徴的な合併症を発症していた。その他、便秘 (28 件) や尿漏れ (11 件) 症状の悪化する人が多かった。また腹部が大きくなる妊娠中期以降には移乗動作、排泄動作、入浴動作、家事動作、買物、外出などに家族らの介助を必要とする人が多くなっていた。

出産方法は帝王切開 42 件、経膈分娩 34 件 (正常分娩 25 件、吸引分娩 8 件、鉗子分娩 1 件) で、微弱陣痛、自律神経過反射などに対する管理目的から予定帝王切開が若干多かった。

また、対象者の意見から「妊娠時に受診病院を探すことが難しかった。」「産科でもリハ病院でも、わからないと言われ困った。」という意見が聞かれ、脊髄障害者の出産が広く認識されていない現状が把握できた。

【考察】

脊髄障害女性の妊娠、出産には、一般の妊婦と同じ問題に加え障害特有の問題がともなう。また、妊娠中期以降は日常生活活動に支障をきたす人も多い。こうした問題を踏まえた情報提供および指導は脊髄障害に携わる医療者でなければできないことと考える。

脊髄障害女性が、より安全に安心して出産に臨むためには脊髄障害者に関する医療関係者が妊娠、出産の現状と問題点を認識することが重要と考える。